

農の営みと生態系保全 ～田んぼの生き物調査～



写真：伊藤窪地区の皆さんと子供達

伊藤窪地区の取組

伊藤窪地区は、山梨県北西部に位置する韭崎市穴山町の、一級河川塩川と七里岩に挟まれた水田地帯です。

今回、伊藤窪地区で行われた「田んぼの生き物調査」では、ドジョウ、モツゴ、サワガニ、ヌマエビ等、10種類以上の生き物が確認されました。調査に参加した子供達は、初めて見る生き物の様子に興味津々で、身近なところにある田んぼに多くの生き物が生息していたことに、驚いた様子でした。

農業と生態系の関わり

農業には、食料生産以外にも、景観保全、災害防止、やすらぎ空間の創出、伝統・文化の継承など、様々なはたらきがあり、これらのはたらきを多面的機能と呼んでいます。生態系が保全されるはたらきもこの中の一つで、農業が作り出す環境は様々な生き物のすみかになっています。

「田んぼの生き物調査」は、魚やカエルなど、水田周辺の代表的な生き物の生息状況を確認し、生態系を把握するための調査です。調査は、地域活動のリーダーとして、市町村が推薦し、県が委嘱しているふるさと・水と土指導員を中心に、農家、地域住民、小学校等と連携しながら実施します。

このような活動は、地域の農家や子供達との交流の場となり、農業の多面的機能を知るだけでなく、農業の大切さを未来へ伝える役割も果たしています。

確認された生き物たち



モツゴ

サワガニ



ドジョウ



ヌマエビ



カエルとタニシ